



### 「岡崎ブランド食材を食べよう」

根石小学校4年生は、地産地消の観点から、岡崎で栽培・飼育されている岡崎ブランド食材に目を向けた。竹千代ポークや法性寺ねぎなど様々な食材を調べる中で、生産者の思いや苦勞を知り、給食では、残さず食べる児童が増えた。そして、岡崎ブランド食材を使用した献立を調理し、実際に味わうことで岡崎市の魅力を再確認することができた。（文責：根石小学校 吉村 茉夕）

### 「学ぼう 生かそう SDGs」



福岡小学校の5年生は、SDGsに目を向けて学習に取り組みました。児童は、SDGsの17つの目標から興味・関心をもった事柄について、インターネットや図書室の本から調べ学習を行っていきました。そして、実際に自分たちで行えることを学校や家で実践をしました。調べたこと、実践したことを学校行事の文化フェスティバルの場でプレゼンテーションしました。

（文責：福岡小学校 志賀 俊太）

### 「形埜の魅力をもっと知ってもらうために」

形埜小学校の6年生は、昨年度の6年生が作成したHPをもとに、それらをもっと詳しくすること、そして形埜に住んでいない人にも伝えることを目標に、学習に取り組んでいる。ササユリや、川の生き物、形埜にあるお店についてより詳しく知るため、1学期では見学と取材を行った。見たいものや質問したいことを事前に話し合い、インタビュー係、ビデオ係、写真係など、役割分担をして見学・取材を行った。これからも豊かな自然と、心優しい人であふれる形埜学区でありつづけるために、自分たちにできることを探して、取り組んでいく。（文責：形埜小学校 神谷 ちとせ）



### 「どうする？大樹寺っ子ガイド！」

毎年6年生が、家康学習の集大成として大樹寺でガイドをしている。2023年に放送された『どうする家康』の影響もあり、一昨年は拝観客が増え、ガイドも盛り上がりを見せた。しかし、今は、訪れる方が減り、子供たちは「どうしたらお客さんが増えるかな？」と考え始めた。現在、「魅力が伝わるガイドや劇をしたい」「パンフレットやカードを渡して、また来たいと思ってほしい」という意見から、大樹寺っ子ガイドに向けて着々と準備を進めている。（文責：大樹寺小学校 鳥居 優貴）

### 「SDGsについて考える」

矢作中学校3年生は、SDGsの視点で矢作中の課題を考える活動を行っている。SDGsの17の目標を調べることからスタートし、地球上の誰一人取り残さないために必要なことは何かという視点で考えている。今後は、矢中生にできることは何かを考えていたり、修学旅行では企業でのSDGsの取り組みについて学んだりしていくことで、矢作の課題を解決する方法を考えていく。（文責：矢作中学校 竹田 将太）

